

**今月の聖句**  
 『罪と何のかかわりもない方を、  
 神はわたしたちのために  
 罪となさいました。』  
 コリントの信徒への手紙二 第5章21節

- ◎2月の予定
- 2日(金) 中学校自宅学習日
  - 2日(金)・3日(土) 中学校入学考査
  - 8日(木) 校内研修会
  - 15日(木) 聖書教室
  - 17日(土) 二〇一八年度入学説明会
  - 20日(火) 評議員会・理事会
  - 21日(水)・23日(金) 学年末試験(中)
  - 22日(木) 教務委員会
  - 23日(金) 児童造形展鑑賞(小4～小6)
  - 27日(火) 教職員協議会
- ◎3月の予定
- 1日(木) 卒業遠足(中3)
  - ☆ステパノカップ
  - 2日 サッカー・5日 バレーボール
  - 7日 陸上・9日 バスケットボール



**☆マラソン大会**  
 大磯運動公園にて小・中合同で行いました。

**☆中学校(新年会)**  
 書初め・百人一首・羽根つき・お餅など  
 盛り沢山の新年会。今年は、小学生も一緒に楽しみました。



**☆第50回神奈川県私立小学校 児童造形展**

今年も、横浜駅東口、そごう横浜店6階のそごう美術館において、『第50回神奈川県私立小学校 児童造形展』が開催されます。期間は、2月22日から26日までです。小学生が授業で制作した作品を出品します。また、今回は一般展示のほかに特別展示があります。各校がテーマを決めて作った作品のコーナーを設置します。聖ステパノ学園は、「アオバト」というテーマです。ぜひ、お出かけください。

こころがかたちになった

第50回神奈川県私立小学校

## 児童造形展

2018年2月22日(木) - 2月26日(月)

開館時間：午前10時 - 午後8時 ※入館無料

そごう美術館 [横浜駅東口 そごう横浜店6階]

SOGO 横浜

主催：神奈川県私立小学校協会 協賛：べんてん株式会社

聖ステパノ学園中学校  
 第5回ハンドベルコンサート  
 日時 3月17日(土)  
 開場 13時30分 開演 14時00分  
 場所 海の見えるホール 入場無料  
 曲目 生命の奇跡・プレイヤー  
 アズ・ザ・ティア ほか

誰もが、誰かのために生きる

学園長 小川 正夫

思い出してみますと、私は、いろいろな人との出会いに、憧れる人、尊敬する人、目標とする人、感動する人、忘れ得ぬ人達があつて、今も新鮮な想いが心に残ります。

学校で毎日出会う子ども達、街角で見かける様々な働き人の姿、困難な状況に置かれた人達から学ぶことも少なくありません。何十年も経ても、思い出すと、不思議なことに、それこそ先週にも会っていた様な気になることさえあります。「我以外皆師」は私の好きな言葉の一つです。

私が新任教師の頃、もう六十年以上も前になるのですが、ハンサムな校医さんがおり、その人が日野原重明先生でした。その後の数々の出会いにおいても、人生の師であり、目標でもありました。子ども達への呼びかけで、いつも生命の大切さをわかり易く丁寧に教えておられ、頷くことばかりでした。

よく「皆さんは成長したら誰かのために生きる必要があるのですよ」と教えていました。英語で、「ペイ・フォワード」という言葉がありますが、私達誰もが、自分の力だけで今があるのではなく、いろいろな形で、多くの方々からの支援で今があるのだから、自分が誰かから受けた親切、御恩を忘れずに、今度は自分が誰かのために親切や御恩に報いることが

大切だということ、いつも先生は人の生き方を教えてくれていました。

晩年のあるとき、先生は「長生きは人に対して恩返しする良いチャンス。罪深い人ほど長生きしなきゃ」と独特のユーモアを交えて話しておられました。奥行きのある言葉です。

「生命は、一人ひとり誰もが持っている大切な時間ですが、大切な時間を誰かのために使うことができる時に、生きることが意味を持つのです。誰かのために生きた人は、人々の心に永く生き続けて残る」と言っています。

自分が苦勞し努力して得た知識や知恵、ノウハウだから、努力しないものに安易に手渡したくない、それぞれが努力し、自分の責任において学習すべきだと思うことも真理ですが、誰かに伝えることで周囲がより向上し、人的環境が豊かになり、自分自身も高められることの方が幸せを感じられるのではないかと思います。

先生は昨年の夏、一〇五歳で天国に旅立たれましたが、教えられることが多く、私も生き方の目標とする先生でした。

嘗て同僚だった養護教諭が「校長先生、四十歳を超えた人を変えようとしても無理よ」と言っていました。日野原先生は「人はいくつになっても自分の生き方を変えることができる」「自分と未来は変えられる」つまり自分自身を変えることが大切と教えています。

日野原先生のお父様が広島女学院の院長をしておられ、校長、理事長を継がれた黒瀬真

一郎先生とも親交があったそうです。

黒瀬先生は、「日野原先生は、子ども達に命の大切さを語り、人の体を土器にたとえ、いかにして、きれいな水をみたくが大切と教えておられた」と思い出を語っていました。

「若さとは生きている時間で測るものではなく、心の持ちようを言うので、若さは、常に何かを創めようとする心を持ち、勇気をもって実践することだ」とも言っています。

更に、「七十五歳を過ぎてから第三の人生が始まるから、今までやったことのないことを創めなさい」。九十五歳の時、「私は野球で言えば九回戦に入っている、これから大事な人生の始まり」とも語っていました。

日野原先生を目標にしていた私は、あまり年齢を気にしたことはありませんでしたが、亡くなった後も、教わったことの一つひとつが新鮮に蘇ってきます。「まさに、誰かのために生きた人は、人々の心にいつまでも残る」の様に、良い先生に出会えたと思っています。高校生の頃、校長先生から、「いつの時代でも、憧れを持ち、目標となる生き方をする先生の姿を求めなさい」と教えられたことがありましたが、聖ステパノ学園の教職員一人ひとりが子ども達の憧れであり、目標となるような生き方をしてほしいと願っています。



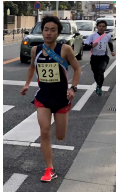
## 『襷』の重み

小学校教頭 佐藤 紀明



冬になると、駅伝大会が多く開催されます。駅伝大会は多くの人々に感動を与えるドラマだと思えます。今年も、元旦には、実業団が日本一をかけて競うニューイヤースタート、三日は関東の大学が集い競う有名な箱根駅伝、中学生から社会人までの男女代表選手による都道府県対抗駅伝大会もありました。一月は大きな駅伝大会が各地で開催されて、TV中継されるので駅伝ファンにはたまりません。

近年の駅伝はスピード展開で、ゴールまで競る場合が多いです。「最後まで分からない」「絶対に諦めない。」ここに、襷を繋ぐ駅伝の素晴らしさがあると思えます。自分だけでなく、皆の思い、努力、汗と涙が染み込んだ襷を受け継ぎ次に繋ぐ大きな意義があります。駅伝の襷には、その年、その時の選手だけの思いが染み込んでいっているのではないと言われる。その学校の歴史、受け継がれて来た伝統、襷には先輩達の汗と涙が詰まっています。それゆえ、駅伝の選手はどんなに苦しくても、予期せぬアクシデントが発生しても、絶対に棄権の決断をしません。日々積み重ねてきた厳しい練習、選ばれなかった仲間、サポートしてくれる仲間、応援してくれる人達、監督、襷には、こうした皆の思いが詰まっています。



1月21日、第64回大磯一周駅伝大会があり、聖ステパノ学園中学校陸上部も参加しました。過去には教職員チームで参加したこともありましたが、今は昨年に続き、陸上部が参加しています。今年は箱根駅伝に出場した選手も走り、とても速いレース展開となりました。ステパノ陸上部は、四区で繰り上げスタートとなつてしまいました。三区を走った選手は、次の走者に襷が渡せず、走り終わった後も、ずっと泣いていました。二度目の繰り上げスタートをするチームもある中、ステパノ陸上部は何とか襷を繋いでゴールしました。ただ、皆の思いの中にはステパノの水色の襷を最後まで繋いで、ゴールしたかったと思えます。

最後まで良く頑張ったと健闘を讃えたいです。同じ日に、第5回小学校駅伝大会もありました。ステパノ学園小学校からも二チームが初参加しました。この大会に出場する小学生は、中学校陸上部と一緒に土曜日冬休み中も練習をしました。本当によく頑張りました。大会は序盤からトップ争いを演じ、一区から三区までは一位でした。最後、僅か三秒の差で二位になってしまいました。初出場で五年生主体のメンバーでこの成績は立派です。もう一チームも、四位と大健闘でした。私も声が哽れるほど、大きな声援を送りました。皆、苦しそうな表情で一生懸命に走りました。子ども達の、一生懸命な走りに涙が出ました。走り終わった後の子ども達の達成感と安堵の表情に駅伝の素晴らしさを実感しました。



それは重圧となつて選手を襲う  
それは折れそうな心を何度も蘇らせる  
それは走れるはずの距離を走れなくする  
それは走れるはずないスピードを連れてくる  
それは若いプライドを打ち砕き  
そして若い才能を覚醒させる  
それは目の前の上り坂を  
恐怖にも闘争心にも変えるもの  
次のランナーに焦りまでも手渡すもの  
君が削り出した一秒を仲間へ届けるもの  
それは汗のじんだ紐きれか  
それとも偉大な伝統の証か

(ナイキCMより)



駅伝は長距離のリレーです。自分のペースで走るマラソンや、持久走とは全く違います。大会に向けて、与えられた時間は皆同じです。その大会に向けて、どこまで自分を追い込み、練習してきたかで、大きく結果が変わります。一人ひとりの頑張り、結果に繋がるのです。「その1秒を削り出せ」という目標を掲げる大学もあります。チームのために、どこまで頑張れるか一人ひとりの意識が大切なのです。駅伝は、単に区間を走る速さを競うだけではありません。チーム戦です。自分だけでなく支える仲間がいるからこそ、応援してくれる人達がいるからこそ、頑張れるのです。『襷』はチームの団結力、絆です。今回の駅伝で、選手と応援した全員が一体となりました。『チームステパノ!』

次の駅伝大会が楽しみです。



私は、三年生の副担任をしています。「こころをつなごう」は、小学校三年生のクラスだよりの題名です。たよりの題名は、子どもたちが考えてみんなで決めました。

さて、クラスには、四つの目標があります。

【①そろろう力②プラス1（ワン）の力③くりかえす力④元気にあいさつ】です。毎日の授業や生活、行事の度に意識して、皆で目標に近づくように頑張っています。

ここでは、【②プラス1（ワン）の力】について書きます。行事におけるプラス1といえ、一学期の森のおとまりがあります。カレー作りに挑戦して、一・二年生のまとめ役として、頑張りました。また、二学期のステップノまつりでは、お客様に楽しんで頂けるような案内係をしたいと、クラスで話し合い、実際の場面を想定しながら、練習を重ねて本番に臨みました。この挑戦も、プラス1の力だと思えます。

さて、算数の授業では、毎日「百マス計算」を取り入れています。たし算六分、プリントを裏返して、かけ算六分以内でタイムを取ります。早く出来た人は、見直しをします。自分への挑戦という意味で、目標を書き込む欄があり、「がんばるぞ」「あきらめない」「〇分〇秒めざす」など、ひとりひとりの目標は様々

です。始まると、教室中がシーンとなって、聞こえてくるのは、鉛筆の走る音だけです。皆の集中している空気が伝わってきます。

そうした子どもたちの一つ上を目指して挑戦する姿を見てみると、私も何かプラス1をしたくなりまし。すると、担任の上戸先生から、「書き写しをしてみませんか。」という提案がありました。「いいですね。」とすぐ決まりました。書き写しの文字数は、百文字です。名付けて「百マス書き取り」です。上戸先生が、その日のうちに、オリジナルワークシートを作ってくださいました。

百文字という一まとまりの文章を、書き写しながら、《体の中に入れる》。沢山の文学作品に触れることで、言葉の世界が広がって、《心が豊かになる》。「これはいい」と思いました。

国語の授業前の六分間が、百マス書き取りの時間です。時間内に書き終えた人は、声に出して読みます。小さな声が、教室の中で響き合います。二学期から始めたので、一月末には、六十四冊の文学作品に出会ったことになりました。

例えば、社会の授業で、くらしの今昔を学習しているところだったので、昔の道具が出てくる『おじいさんのランプ』はどうか。『東海道中膝栗毛』の酒匂川が、出てくるところを抜き出してみよう。小田原方面から通ってくる子が、「知っている。」と言うかもしれない。冒険好きの子には、『十五少年漂流記』が

リバー旅行記』はどうか。また、詩や古典の言葉の響きを味わってもらえたらと、『雨二モマケズ』春はあけぼの』なども入っています。

一方、子どもたちからは、「〇〇へ行ったら、走れメロスがあつたよ。」「ぼくの持っている本に耳なし芳一があつたよ。」「くまのパディントン映画をみたよ。」と、朝、登校するなり話してくれました。角野栄子さんの『スパゲッティがたべたいよう』では、まだ三時間目なのにお腹が空いてしまったようです。

しばらくすると、子どもたちからリクエストがきました。『ハリーポッター』『スターウォーズ』『くまのプーさん』は、何日もかけて、自分で百文字を抜き取ったメモを渡してくれました。まだまだ続きます。『ズートピア』『アールと少年』『銭天堂』等々です。

司書の先生に、百マス書き取りの話をししましたら、中学校の図書室からも探してください、たつぷり本が届きました。中学校の先生からも、『星の王子さま』『君たちはどう生きるか』などのおすすぬめがありました。小学校の先生は、愛読書の中から一気に二十冊分をワークシートに打ち込んで下さいました。この百文字にしようか選んでいる時が、楽しくてしかたがなかったそうです。

自分がいいなあとと思った箇所を、子どもたちが、書き写し、声に出して読んでいる瞬間は、こころがつながった思いがして、嬉しい気持ちでいっぱいになります。

## 「画用紙の上の小さな宇宙」

非常勤講師 山口 小百合

全学年の子どもたちが二月の造形展に向けて作品づくりに取り組んでいます。

4年生はゼンタングルに挑戦しました。制作の大部分は、自分でデザインした形をひたすら折り紙サイズの紙に描き込み、それをペンでなぞっていくという途方もない作業でしたが、最後まで描きあげることができました。

ゼンタングルのペン入れ中に、子どもが私にこう言ってきました。

「ペンのほかにも使いたい。絵の具で試してみたい」

私は思い切ってその時間は好きな道具を使って「実験」していいことにしました。黒ペンチームと、絵の具チームに分かれ、それぞれのテーマで制作を始めました。

絵の具を選んだチームは、大きなチューブに入ったポスターカラーを運んできて、ボウルに何色も出して混ぜ始めました。未知の色を作るには、実際に紙に使うよりもたくさん絵の具を混ぜてみる必要があります。そして色々な画材に触れてみる機会があるのが、アトリエのよいところです。ある子はアトリエの道具箱にあった金網でコンテを削って粉末にしてみました。ひとしきりコンテを削ったところで、絵の具に混ぜてみると、綺麗な色ができたとはしゃぎました。私は、今度は

砂の感じを残してゼンタングル模様に絡ませてみようかと提案しました。

「コンテ留め液を使おう。」

「コンテの粉が、紙にくっついた！」

「今度は粉で模様を描いてみたい。コンテ留め液より、糊を使ってみたらいいんじゃない？」

「糊でどうやって模様をつくるの？」

「粘土の型が使えるかも！」

級友同士で話し合いながら、ときには思いついたことを試してみても、コンテの使い方を工夫しました。一方で、黒ペンでなぞるチームは、ゼンタングルのデザインに凝っていました。ゼンタングルの模様のバリエーションをいくつも作ったり、細かい模様をつなげてパターンをつくったり。たくさんアイデアを考えたので、ペンで清書するのがすごく大変だ：とこぼしながらも、粘り強く取り組んでいました。

5年生は、好きな食べ物や料理を紙粘土で作りました。紙粘土という素材の持ち味を活かし、ソフトクリームのなめらかさを再現する子がいる傍ら、創作料理を始める子が現れました。「好きな食べ物」がテーマですから、夢の料理があってもよいと考えました。写真的に作る事が目標なので、図書室から山ほど借りて来た料理の本を参考にしました。夢の料理を表現するには、既知の食べ物のイメージと、これまでの食事経験が基礎になります。今回は食べ物テーマでしたが、子ども

たちは普段の経験が夢や空想のヒントに繋がる事を、改めて実感していました。

図工の時間では、子どもが途中で好きなものを作り始めたり、道具入れから新しい画材を引っ張り出してきたりすると、収集のつかない時があります。私としては、授業についてきてほしいので、脱線した子を軌道に戻したい。子どもは、新しい道具や材料に触れてみたい。そこで私は、毎回の目標を明確にすることができていただろうか、と改めて考えさせられました。常に密度のある制作をして、楽しく作業して、新しい発見もさせたいと欲張っている自分に気づきました。

4年生と5年生は二期の課題で、聖歌の絵を描きました。子どもたちになじみ深い、「小さいひつじが」を選曲しました。歌の場面を想像して時系列に描いてみる子、印象に残った場面を描く子、羊を百匹描いてみる子、自分の思い出とごちゃ混ぜに描く子、さまざまな表現活動が開かれました。「小さいひつじが」というテーマがあるとはいえ想像で絵を描くという作業は、一から画面を作っていく必要があるのです、子どもたちの頭を悩ませました。悩んだぶんだけこの歌の物語が、子ども達の記憶に残っていると思います。そしてこれから成長していく中で、羊飼いの気持ちに感じる瞬間が来ると思います。その時この歌について一生懸命考えたこと、画用紙の上で想像の世界を作ったことを、思い出してくれば幸いです。

「小学校」一月の体育では持久走を行い、記録カードで取り組みの振り返りをしてきました。大会後の作文と合わせてお読みください。

### 運動公園

小一 M・M  
たくさんはしってたのしかったです。

### 運動公園

小二 A・K  
一いになったのがうれしかったです。

### グラウンド

小三 A・M  
がんばって五しゅうはしった。八しゅうにむけてがんばる。

### サイクリングロード

小五 H・H  
もう足がパンパンです。でも風が気持ちよかったです。

### さあ、マラソン大会本番です。

小二 T・M

きょうマラソン大会をやりました。みんなよく走りました。はじめは、はやく走って、とちゆうはゆっくり走りました。さいごのまっすぐの道は、つかれていたけれどがんばって走りました。そしたら、はやく走れました。よかったです。二いでした。つぎは、一いになりたいです。

小三 K・S

今日は、まちにまった「マラソン大会」でした。スタートのいちにたつと、ゾアゾアしてきました。校長先生がピストルを「パーン」

とならずと、いつせいにみんなは、かけだして行きました。ぼくも負けずにとびだしました。二周目には、Tさんが近づいてきました。ぼくは、「ヤバイ」と思って、スピードをあげてぬかされないように走りました。ついにゴールしました。記録は「七分二十七秒」でした。めちやくちやうれしくて、どや顔になりました。

小四 K・F

今日は、マラソン大会の日です。いつもと同じペースで走れました。一周目は、三、四人くらいぬかしました。二周目は、Oくんとならんで走っていました。そして、さいごにぬかしました。十分以内にゴールしました。この前の試走よりも三十秒速くなりました。苦手な体育ですが、走るのが一番好きになれたような気がします。他の人が走っている様子は、見られませんでした。がんばった、くやしかった気持ちはわかります。バス停から運動公園を往復するのも体力アップになると思います。いままでのことをふりかえってみたら、自分がいままでどれくらい身についたのか分かりました。

小五 A・H

今日はマラソン大会をやりました。最初は、「2・2キロも走れないよ」と思っていたけれど、練習が終わると楽しかったなと思いました。なので、この日から、毎週土曜日や日

曜日に走りに行くことにしました。そして、今日は本番です。目標は、「これまでよりも良い結果を出す」にしました。二周目が終わった時、三人ほどが三周目も終わり、ゴールしそうでした。三周目は、呼吸がしづらくなり足もいたくなりました。けれど、これで最後と思いつながら走るとがんばれました。ゴールした瞬間は、やつと終わったと思いました。結果は、十三位で一分五十七秒でした。自己ベストだったし、目標も達成できたので、うれしかったです。

小六 Y・H

今日、マラソン大会がありました。今朝は寒かったので、スタートの時、寒くないか心配でした。バスに乗って大磯運動公園に行きました。最初は、中学生が走っていました。中三のH君が速かったです。中学生が終わった後すぐに五、六年生の走る番になりました。自分の心臓をさわってみたらドクツドクツと鳴っていました。そして、スタートラインに立ち、校長先生がスターターを鳴らしました。そして、みんながいつせいに走りだしました。最初は、S君とM君について行こうと思いましたが、だんだんはなれていったので、一人で走りました。ですが、すぐにY君が後ろにきたので、Y君からにげて走りました。そしてゴールしました。楽しく自分のベストで走れて本当に良かったです。

「中学校」今年は当日四十五人の生徒が完走しました。体育の授業や部活動で、各々が準備をして本番に臨むことができました。

練習をしてよかった

中一 S・A

今日は、マラソン大会本番でした。マラソン大会まで私は、すごくたくさん練習をしました。部活では水曜日はもちろん土曜日、サイクリングロードに行つて3kmを走つたりしました。練習は「すごくきついな」と思うこともありました。でも、弱音をはかずに練習をしてきたから、だんだんタイムも少しずつ良くなってきたと思えました。練習のときに、先輩について行つて、あと少しで抜かせようでしたが、抜かすことはできませんでした。体育の時間にも練習をして、速く走れるようになっていきました。

マラソン大会まで、すごくドキドキしていました。本番は今まで練習してきた成果を出すことができるかすごく心配だったけれど、練習してきた中で一番いい感じで走れたと思えました。先輩のことを四周目ぐらいから抜かすことができました。すごく辛かったです。ゴールまで抜かされないように全力で走りました。ゴールの直前で少し抜かされてしまったけど、たくさん練習をした成果を出すことができて、すごく嬉しかったです。



ぼくの足

中二 O・K

今年も走つたマラソン大会、それはとても苦しい、だけど喜びでもある。

ぼくは今年も自分の足を使つて走つた。去年よりも足が速くなつていた。体育の時間、ぼくは思った。「どうして走らなきゃいけないの。もう足が痛いよ。」とぼくはいやになつていた。そしてぼくは日記に書いていたら、こういう風にコメントが戻つてきた。「それは生きるために走るんだ。」そして、ぼくはそれを読み頑張つて走つた。辛い戦いだったけど、最後まで走り切つた。

ぼくはこのマラソン大会がどうしてあるかがわかつた。それは、自分の弱い心に打ち克ち、この世を生きるためだということに気がついた。

今年こそは

中三 S・Y

冷たい空気と冬の香り。自分では、暑いのか寒いのか分からない。「よーい：パン！」この大きな運動公園を四周も走るなんてキツイだろう。私は、それでも女子で一位を取るんだと走りながら心の中で唱えていた。一周目。沢山の保護者たちが応援しているのが見える。自分も応援されて、「よしっ、がんばろう。」という気持ちになつた。二周目は後ろで走っていた何人かの男の子たちに抜かされた。自分のペースがだんだん落ちてきているのが、

自分でもわかる。三周目。残りあと一周。「がんばれ」何度も自分に言い聞かせた。すると、後ろからAさんが来て抜かされた。残りの二百メートルくらいで、Aさんはスピードを上げた。「ん？なんでスピード上げているの？：あつ、まさかっ！」と思ひ、そのまさかだった。私はAさんがまだ二周だとかん違ひしてしまひ、油断してしまつたのだ。私もAさんにつられてスピードを上げて走つた。あと五十メートル。Aさんにおいついた私は、何とか無事にゴールをした。結果は一位だった。あと少しでもまさかと思つてあせつてなければ、私は自分の目標に届かなかつただろう。去年の今日は辛い気持ちだった。だから、今年中三最後のマラソン大会は、良い形で終われてすごく嬉しいです。

練習と比べて

中三 S・R

今日のマラソン大会と練習を比べると、ペースを変えずに走れたと思います。去年や一昨年と比べて、走りは速くなつてペースも上がったと実感しました。

今回は、スタートで、出遅れてしまつたと思つたが一周目後半から三周目前半までは人を追い抜きながら走つて、最後の直線を全力で走りました。終わつた後は達成感がありました。反省としては、時々下を向いて走つてしまつたことです。走り切つた後に飲んだ水は最高においしかったです。



「私塾まきばを訪ねて」

小さな子どもたちが、ステパノの運動会に参加したり、体育館で遊んでいる姿を見かけます。私塾まきばの園児さんです。ステパノから歩いてそう遠くない園舎を訪ねてみました。

静かな住宅地を進んで細い路地を入ると、山門がありました。自然のままの山に、古民



家の園舎があります。四季折々の風景が広がり、何をして遊ぼうかとワクワクするような環境です。園長の山田雅井先生が笑顔で迎えてくださいました。

今の園舎は、元々はお茶の先生の邸宅でした。ステパノ小学校を建てて下さった菅家さんが、ぬくもりがある民家の雰囲気はそのままだに、子どもが使いやすいようにしつらえて下さったそうです。

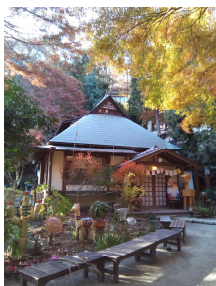
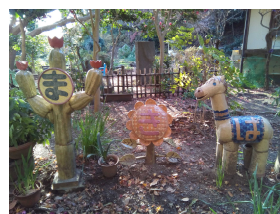
大磯町出身の山田先生は、社会に出て最初に働いたのがステパノ学園幼稚部でした。十年間、夢中で子どもたちと向き合ったそうです。その後、子どもを育てるとはどういうことなのだろうと改めて考え、大磯町内の私

立幼稚園で働いた後に私塾まきばを始められました。一昨年が創立二十周年でした。まきばOBの小学生たちの夏キャンプのためにステパノの体育館を借りたことをきっかけに、現在の小学校の図書室にあたる場所で保育をするようになりました。

ステパノの新校舎の建設に際し、私塾まきばも移転することになり、二年ほど前に現在の場所に移ったそうです。

現在園児は三十九人ほどで、二歳児のクラスもあります。普段の生活はクラスを分けずに、みんな兄弟のように生活しているそうです。子どもたちは冷たい北風をものともせず、園庭で走り回って遊んでいました。

山田先生が働く根底には、神様の御心を求める祈りと美喜先生のかたわらで学ばせていただいたことが脈々と流れているといえます。美喜先生の貴重な話も伺ったので、次号で紹介いたします。



### 【お詫び】

1月号本ページに於いてリサイクル委員会の活動時期に誤りがありました。活動は二〇一四年より行っております。お詫びし、訂正させていただきます。

## STEPHEN'S NEWS

### 表彰

【実用数学技能検定】

9級 小3 S・S

【第50回卒業生送別マラソン大会】

中学校3年生男子4キロの部

第3位 中3 H・Y

【第5回大磯小学生駅伝大会】

第2位 聖ステパノ学園小学校Aチーム

第4位 聖ステパノ学園小学校Bチーム

### 編集後記

マラソン大会には、沢山の方々の応援をいただき子ども達も大変励みになりました。小学生も中学生も、どの子も本当に一人ひとりがまさに、「ベストを尽くした走り」をすることができました。本番めざして、練習を重ねる中で子ども達は大きく成長しました。ご協力ありがとうございました。(さ)



代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

〒二五五〇〇三神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463・611・1298

FAX 0463・611・9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一八年二月八日(木)発行 第218号